

高浜南部幼稚園

高浜市の南部に位置し、港小学校と隣接している。周辺には、かわら美術館、碧海公園、南部ふれあいプラザなど公共施設があり社会体験が得られる環境にある。

近隣の市民の力やまちづくり協議会等の協力、支援をいただき、園児にとって心地良い保育環境となっている。

各年齢の発達に応じた玩具や遊具、教材など自発的な活動ができる環境設定がされている。

小規模園の長所を生かし一斉活動、自主活動においても異年齢交流が計画的に実施されている。

保育目標、指導案、個々の発達状況の記録がきちんとされている。園長、主任からのコメントもあり指導に反映されている。

ひかりこども園

保育園周辺に住宅は密集しておらず、静かな場所に立地しており園庭も広くのびのび遊べる環境である。園からは遊歩道をつかって散歩することができ、花や虫など季節を感じられる。

室内環境の遊具も充実しており、玩具の箱に写真を貼るなどされており、子どもが選びやすく整理されている。特に乳児の部屋は、天井に薄い布をかけた着替えをするスペースを作るなど工夫が見られる。

遊び道具も既製品以外に手作りしてあるなど保育環境同様、年齢にあわせた保育をしていると感じる。遊びの際には、自分で遊びの展開に気づくような言葉がけを保育士が子どもたちに行っている。

発表会が近いと、楽器演奏や合唱する元気な子どもの姿を見ることができる。また壁面には季節の工作が飾られて子どもたちのクリスマスを楽しみにしている雰囲気も伝わる。

高浜南部保育園

高浜市南部の住宅地に位置し、南部デイサービスが併設されており、園児による昼食時のおしぼり配りや「いただきます」のあいさつなど、利用者との交流がある園である。

近隣には地域共生型福祉施設「あっぱ」があり、南部まちづくり協議会との連携も強く、ピザづくりや焼き芋会、餅つき会など園児は様々な体験ができています。

年齢ごとに考えた遊び道具や玩具、素材などを配置しており、遊びの連続性を大切にしている保育を提供している。例えば、餅つきでは米から蒸す工程から始め、花餅を作り、部屋に飾るなど、制約のある中でも子どもたちが楽しめるような工夫が見られる。

理念となっている「一人一人を大切にする」ため、保育士が丁寧に声をかけて寄り添う姿が見られる。

園独自で保育の自己点検、評価を行っており、振り返りや園長との面談を通して保育の質向上、保育士のスキルアップを心掛けている。また立地から海が近いこともあり、定期的な地域の合同避難訓練に参加したり、防災士に助言を仰いだりして防災意識も高い。

吉浜保育園

園舎の2階には児童センター、東側には老人支援施設があり利用者と交流する機会がある。また、近隣には商業施設があり、子どもたちが買い物体験できる環境にある。

園庭の中央にはせんだんの木がそびえ、小鳥たちが飛んできたり、夏には木陰になったり、遊びが展開されやすい環境である。

吉浜まちづくり協議会の協力を得て菊人形作りや畑作りがされている。

0・1・2歳児は育児担当制で保育されていて、特に0歳児は発達にあったおもちゃが用意されていて落ち着いている。

食育には栄養士と連携をとり旬の物などの体験ができています。

たかはまこども園

高浜小学校や複合施設たかびあに隣接しており、少し歩けば高浜港駅、かわら美術館もあり恵まれた環境である。

職員室、保育室より園庭の様子が見られる。1・2歳児用の園庭と3・4・5歳児用の園庭が区別され、安全に遊ぶことができるよう配慮されている。

調理室には大きなガラス窓があり、子どもたちが調理の様子を間近で見ることができる。園内に調理中の香りが届くよう排気も工夫されている。

電車やバスに乗って園外に触れたり社会体験ができるように工夫されている。

3・4・5歳児は月に一度、外国人講師による異文化コミュニケーションにより、遊びながら英語に触れることができている。

4・5歳児はテーマをもち、先生と子どもたちが話し合い、共同制作からごっこ遊びに展開し、主体性が感じられる。1・2歳児の保育室には発達にあった玩具が用意されている。午睡の部屋が用意されていて生活の基盤が整えられている。

吉浜北部保育園

高浜市北部にあり、自然に恵まれ、すぐ隣に八幡神社があり季節ごとに楽しむことができる環境である。

まちづくり協議会の協力を得て作られた広い畑があり、園児たちが毎年様々な野菜を育て収穫する体験ができる地域交流の場になっている。

花の塔や菊人形など吉浜地区の伝統文化に触れることができる環境にある。また、外国籍の子どもたちも多く在籍しており、関わり方を工夫しながら対応している。

それぞれの年齢にあった教材が準備され、乳児では、ホックでつなげる玩具など発達に応じた遊びを準備したり、年長児では個の人形遊びからクラス全体の造形活動へ発展するなど、子どもの姿をよく見ながら保育を展開している様子が見られる。

戸外活動では、園庭は決して大きくはないが乳児も遊べる工夫があり、新しく設置された遊具で遊ぶ姿が見られる。

保育記録の面では、デジタル化の適切な導入により情報共有され、主任、園長からのフィードバックもでき、うまく機能している。特に未満児の記録については個の記録が丁寧に記され成長や保育内容を可視化できている。

自由参観では、1日1家族として、子どものいつもの姿をじっくり見られる工夫がされている。